



地域と共に学ぶ防災訓練



7月3日（金）、鶴岡市全体で地震・津波が発生したことを想定した避難訓練を実施しました。今回は山形大学の村山教授を講師としてお招きし、専門的な知見に基づいた訓練となりました。

当初は、地震発生後に駐車場へ一時避難し、その後、津波警報の発令を想定して校舎3階へ避難する計画でした。しかし、村山教授からの助言を受け、訓練内容を見直し、駐車場には避難せず、直接校舎3階へ避難する方法に変更しました。これは、土砂災害や津波の危険性を考慮した場合、駐車場よりも校舎3階の方が安全であるとの判断によるものです。

3階への避難後には、「避難所開設トレーニング」を実施しました。この活動では、体育館が実際に避難所となった場合を想定し、避難者をどのように受け入れ、運営していくかを体験的に学びました。生徒は中学生だけでなく、高齢者や高校生などさまざまな立場の役割を担当し、ロールプレイ形式で訓練に参加しました。また、地域住民の皆様にもご協力いただき、避難者の受け入れを実践する貴重な機会となりました。

豊浦中学校の体育館は、地域の一次避難場所に指定されています。2019年の山形県沖地震の際には、実際に避難所として活用されました。その際、当時の本校生徒がテレビや椅子などの準備に積極的に取り組んだことは、今でも地域の方々から高く評価されています。また、体育館の鍵を地域の方が保管し、緊急時には速やかに開館できる体制が整えられていることも、本地区の大きな強みであることを教えていただきました。

村山教授の講話では、「豊浦地区は全国的に見ても防災意識が高く、地域と学校が連携した取組が進んでいる地域である」とのお話がありました。今回の訓練を通して、地域の皆様とともに防災に取り組むことの大切さを改めて実感しました。

防災訓練は、自分自身や周りの人の命を守るための大切な学びの機会です。今後も地域と連携しながら、防災意識を高め、互いの命を大切にする姿勢を育んでいきたいと思ひます。

